

令和4年度 京都府立嵯峨野高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）（案）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◇ 「和敬」・「自彊」・「飛翔」を教育の柱に据え、志を持って人生を主体的に生きる生徒を育て、国際社会のさまざまな分野でリーダーとして貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>◇ 高いレベルでの自己実現を希求し、主体的に学ぶ姿勢と高みに挑むチャレンジ精神を備えた生徒の育成を図る。</p> <p>◇ 豊かな人間性の育成と高い学力の伸長を図る。</p> <p>◇ 生徒・教職員が一体となり、社会の教育力を有効に活用しながら Sagano Dynamicsを推進する学校づくりを進める。</p> <div data-bbox="165 1038 636 1201" style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Sagano Dynamics: the way in which things or people behave and react to each other</p> </div>	<p>① 1人1台端末、HR教室設置のプロジェクトを活用して授業、学校行事、ガイダンス等を進めた。ICT質問箱を設けることで学校全体としてICT機器に関する情報共有を図るなど、ICT利活用を推進し、コロナ禍でも教育を進めることができた。国際交流についてはオンラインで継続実施し取組をさらに充実させることができた。学習用タブレットの適切な活用方法については検討を継続し、高い情報モラルも身につける教育を推進していく必要がある。</p> <p>② 探究活動の発表会、ラボ交流会（2・3年）、キャリアワークショップ（1・3年）を通して学年を超えた学びの共有ができた。SSH第3期は、基礎枠で採択され、新たに5年間の指定研究に取り組むことになった。アカデミックラボについては研修会を通して教科を超えた指導法の共有を進めることができた。今後は、探究活動を生徒の主体的な学びの推進や進路選択・キャリア意識の形成につなげる仕組の構築が必要である。またラボ活動については、担当教員以外への情報共有を円滑に進め、成果や手法を校外外へ強く発信していく必要がある</p> <p>③ 日々の学習指導や進路学習、個別面談に加え卒業生講話、高大連携事業、各種ガイダンス等を進めることで、高い進路目標を達成する生徒の育成につなげることができた。新学習指導要領の本格実施に際し、指導と評価の一体化につながる教育活動を進めることが今後の課題である</p> <p>④ 個人面談、教科担当者会議、学年会議等を通して生徒情報を共有し、効果的にサポートすることができた。コロナ禍においても生徒会や各委員会が工夫を重ね、できる限りの学校行事を実施し、生徒の主体的な活動の場を保障することができた。生徒の人権意識のさらなる向上や挨拶等のマナー意識の向上に向けての指導が必要である</p> <p>⑤ 新型コロナウイルス感染症拡大防止については、全校体制での指導を継続することができた。また、校内美化については保健美化委員会の活動により意識の向上に努めることができた。ごみの分別の徹底が今後の課題である。</p> <p>⑥ Wi-Fi整備に伴い、図書館での端末利用が進んだ。様々な企画展示により読書への興味関心を喚起することができた。今後も資料提供の充実とともに、1人1台端末利用に対して、安定した接続環境や設備の維持に努めていきたい</p> <p>⑦ コロナ禍においても形態を工夫して学校説明会を実施し、本校の魅力を伝えることができた。本年度は、中学生の志望動向の変化に対応した広報活動と、より効果的な情報発信のためのHPのリニューアルについての検討を進めていきたい。</p>	<p>① 魅力ある学校作り 主体的に学び続ける生徒を育てるため、質の高い学びを提供する。</p> <p>② 組織とその運営 分掌間の連携を密にして、全校体制で教育活動を推進する。</p> <p>③ 学習と進路指導 新学習指導要領に基づいた学習指導を円滑に進め、観点別評価の実践をさらに進めるとともに、あらゆる機会をとおして、高い進路目標の実現に努める生徒を育成する。</p> <p>④ 生徒指導と特別活動 人権尊重の意識や挨拶、マナー等の規範意識を向上させ、自立した行動ができる生徒を育てる。また、特別活動をとおして、リーダーを育成し、対話を重視した活気ある生徒集団を育てる。</p> <p>⑤ 健康安全と環境美化 新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組を継続する。心身両面において支援の必要な生徒が健やかな学校生活が送れるようにサポートする。ゴミの分別を徹底し、校内美化に努める。</p> <p>⑥ メディアの活用 学校図書館の機能や役割の充実を図り、教育活動や読書活動の支援に努める。</p> <p>⑦ 家庭・地域社会との連携と広報活動 小中高連携を進めるとともに、学校の魅力を広く伝え、中学生や府民から選ばれる学校をめざす。</p> <p>⑧ 施設設備・文書管理 学習環境の維持、適切な文書管理、情報管理を行う。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
魅力ある学校づくり	主体的に学び続ける生徒を育てるため、質の高い学びを提供する。	<p>質の高い授業の実践のため、研修会や公開授業を通して研鑽を重ねる。</p> <p>SSHをはじめとした各種指定事業を推進し、生徒の学びを充実させるための先進的な教育活動を提供する。</p> <p>多様な観点から日本の伝統や文化について理解を深める指導やグローバルな視点を養うための国際交流やラボ活動など様々な取組を実施する。また自信をもって自分の意見を発信する場面を設定し、学校一丸となり指導に取り組む。</p> <p>学習用タブレット端末を活用した授業実践を通し、個に応じた指導を進めることで学力のさらなる伸長を図るとともに、研修会や公開授業を開催し、教科の枠を越えた学習用タブレット端末の活用方法の共有を図る。</p>		
組織とその運営	分掌間の連携を密にして、全校体制で教育活動を推進する。	<p>ICTの活用などを適宜行うことを通して、各関連部署の連携を緊密にし、生徒情報や効果的な指導に役立つ取組を共有する。</p> <p>新学習指導要領に基づく教育活動を円滑に進めるために情報収集と実践例の共有を行う。</p> <p>探究活動における発表会、とこのは祭や学校説明会など各行事や取組について、分掌間での協力体制を強化する。</p>		
学習と進路指導	新学習指導要領に基づいた学習指導を円滑に進め、観点別評価の実践をさらに進めるとともに、あらゆる機会をとおして、高い進路目標の実現に努める生徒を育成する	<p>適切な評価を行うため、各教科の実施状況を学校全体で共有するとともに、評価方法についての研修を実施する。</p> <p>学校全体として、生徒が学習に対して常に前向きな姿勢が維持できるように支援するとともに、生徒が学習を継続するための心理面でのサポートも充実させる。</p> <p>進路ガイダンスや生徒・保護者との面談などを適切な時期に実施し、将来像の明確化や学習状況の確認を行い希望進路の実現のためのサポートをする。また、広い視野に立った進路選択のあり方や社会との結びつきを念頭に置いたキャリア教育の充実に努める。</p> <p>最新の大学入試についての情報を学校全体で理解を深め、多様な入試に対応する力を育てる。</p>		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導と特別活動	<p>人権尊重の意識や挨拶、マナー等の規範意識を向上させ、自立した行動ができる生徒を育てる。また、特別活動をとおして、リーダーを育成し、対話を重視した活気ある生徒集団を育てる。</p>	<p>人権学習を通じて、基本的人権を尊重する心を育み、人権問題を直視し、解決に取り組む姿勢を育成する。また、他者への理解を深め、自他を共に尊重する態度を育てる。</p> <p>学校行事、委員会活動、部活動などの活動を通して、生徒が主体的に企画・運営する力を育む。</p> <p>身だしなみ・挨拶・ルールやマナー等の規範意識を醸成するために、毎日の教育活動の中で意識づけを行う。また、望ましい対人関係を構築することを意識させるために適切な助言を行う。</p> <p>18歳成人を踏まえた主権者教育やデジタルシチズンシップ教育を学校全体で取り組む。</p>		
健康安全と環境美化	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組を継続する。心身両面において支援の必要な生徒が健やかな学校生活が送れるようにサポートする。ゴミの分別を徹底し、校内美化に努める。</p>	<p>心身両面において支援の必要な生徒のニーズに対応し、健やかな学校生活を送らせる。またその過程を通じて、高校卒業後に必要な能力を育成できるように努める。</p> <p>全校体制で、教室の換気、手洗いの励行、マスクの着用をより一層徹底させるとともに、生徒の感染に対する意識が緩まないよう特に黙食の徹底について1年を通して指導を継続する。</p> <p>保健美化委員会の活動を通して校内美化に関する意識をより高め、学校全体で、節電、ゴミの分別と減量、美化意識の向上につながる取組を実施する。特にリユース・リサイクルを意識した物品管理を行うことで、廃棄物排出抑制を行う。</p> <p>CO2排出削減、省エネルギー等の観点から、環境意識を涵養するため、教職員で電気・ガスの使用量に関する情報共有を行う。</p>		
メディアの活用	<p>学校図書館の機能や役割の充実を図り、教育活動や読書活動の支援に努める。</p>	<p>広報紙の発行や各種の企画展示等を通して、図書館の積極的利用を勧め、生徒の自発的・主体的な読書習慣の形成に努める。</p> <p>図書館と各教科が連携して、図書資料等の整理・充実やICT機器の活用に努め、探究活動の支援及び言語活動の充実を図る。</p> <p>教職員の教科指導や研究活動に関し、資料・情報の収集に努め、図書の供用や情報提供等、教職員へのサポート機能の充実を図る。</p>		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
家庭・地域社会との連携と広報活動	小中高連携を進めるとともに、学校の魅力を広く伝え、中学生や府民から選ばれる学校をめざす。	<p>広報媒体のデザイン刷新に努めるとともに、全校体制による説明会の活性化・ブログの充実・中学校訪問での丁寧な対応により受け手に響く情報発信に尽力する。</p> <p>学校説明会や地域の小学生を対象とした科学教室などを通して、本校の魅力を伝えるとともにニーズに応じた取組の開催を目指す。</p> <p>広報資料の作成にあたって、印刷物にとらわれず、より効果的な広報手法の提案と実践に努める。</p>		
施設設備・文書管理	学習環境の維持、適切な文書管理、情報管理を行う。	<p>学校施設・設備の安心安全の確保のため、委託業者による法定点検のみならず、校内自主点検を加えることにより、危機管理的予防対応も可能な校内体制を構築する。</p> <p>照明設備のLED化、ICT設備の充実や老朽化した設備の更新などについて、計画的効率的に予算を活用し更新整備を図り、学習環境の充実のため予算確保に努める。</p> <p>業務改善の一層の推進のため紙媒体文書の電子化推進と、それに伴う個人情報の保護や機密情報の管理などリスクマネジメントを行う。</p> <p>コロナ対応など即応性が必要な事案については、スピード感をもって対応する。</p> <p>コミュニケーションエラー等人的起因となる事故を未然に防止できるよう、多重牽制など複数確認と業務効率の両立に努め、高いチーム力が発揮できる円滑・円満な人間関係の構築を目指す。</p>		

学校運営協議会による評価	
--------------	--

次年度に向けた改善の方向性	
---------------	--